

高2 沖縄修学旅行（3月5～9日）の決断

3月1日に卒業した高校3年生は、遺愛として77年ぶりに修学旅行に行けませんでした。コロナ禍にもかかわらず、遺愛の高校生活には本当に満足して卒業していきましたが、やはり沖縄修学旅行に行きたかったと語っていました。また、93歳の同窓生が修学旅行と太平洋戦争が重なり、修学旅行に行けなかったことを、93歳になられても残念に思っていることを昨年お手紙で知り、今年度は何とか行ければと願っていました。

当初は10月初旬に行く予定でしたが、デルタ株の登場、東京オリンピックの開催などもあり感染者が増え、2022年3月に延期することにしました。11月から1月4日まで函館では新規感染者は0人でした。沖縄も比較的落ち着いていて、3月には間違いなく行けると思っていました。沖縄の米軍基地からオミクロン株の感染者が出て、瞬く間に沖縄全土に広がっていました。函館は大丈夫だと思っていました。1月5日に久しぶりに1人出て、13日には13人、17日45人、24日98人、26日には214人まで増えました。

1月以降、私の「早朝の祈り」のなかに、「御心ならば、沖縄修学旅行が実現しますように。」という祈りが加わりました。

しかし、なかなか収まる気配がなく、高2の保護者には、キャンセル料保険に加入することを了承していただき、最終判断を2月25日にすることにしました。その間に函館も沖縄も新規感染数のピークは過ぎ、沖縄はまん延防止重点措置地域を外れ、受け入れ可能地域になったものの減少数が鈍くなりました。函館は減ってきていましたが、北海道全体が増えていることで、まん延防止重点措置地域に3月21日まで継続指定となりました。

遺愛では、2月15日（火）の高校一般入試実施に向けて、2月はじめからクラブ活動停止、数日の臨時休業などの対応をとり、感染対策をしました。また文部科学省からは研修（修学）旅行は、安全を確保しつつ可能な限り実施してほしいという通達が出されていきました。また校内の感染者数が増えていないこと、遺愛でも生徒のワクチン接種が進んできたこと（昨年と全く状況が違います）。オミクロン株は若年層への感染力は強く間違いなく増えているが、従来型と同様、若年層について重症患者・死者はほとんどいないこと。高2在籍数の80%以上の生徒・保護者が、この状況で参加希望をしていること。高2保護者のうち44名が病院勤務していますが、そのうち37名が生徒参加に同意していること。そのうち医師が7名いらっしゃいますが、全員お子さんの参加に同意していること。そして2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻しましたが、沖縄修学旅行の大きな目的の1つは平和学習で、沖縄は太平洋戦争中に日本で唯一、米軍が侵攻し

陸上戦が戦われ、たくさんの悲劇が生まれた場所であり、こういう時だからこそ平和学習をしっかりとしたいという思いもあり、2月24日に実施を決断し、25日に発表しました。それからは、神様に無事沖縄に行き、全員で戻ってこられることをひたすら祈る日々でした。



空港での出発式の様子

2022年3月3日